

【学力調査】

本調査は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の成果と課題を検証して改善を図るために行われました。生徒に身に付けるべき資質・能力の一部について調査されたものです。

国 語	数 学	英 語
<p>成果が見られた設問 【話すこと・聞くこと】の領域 「目的や場面に応じて質問する内容を検討する」「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる」 【言葉の特徴や使い方に関する事項】の領域 「事象や行為、心情を表す語句について理解する」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」</p> <p>課題が見られた設問 【書くこと】の領域 「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」 【言葉の特徴や使い方に関する事項】の領域 「文脈に即して漢字を正しく書く」 【読むこと】の領域 「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」</p>	<p>成果が見られた設問 【数と式】の領域 「数と整式の乗法の計算」「問題場面における考察の対象を明確に捉える」</p> <p>課題が見られた設問 【数と式】の領域 「自然数の意味」や「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由」「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだす」ことを説明する 【図形】の領域 「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解する」「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」「条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る」 【関数】の領域 「反比例の意味を理解する」「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る」 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」 【データの活用】の領域 「累積度数の意味を理解する」「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」</p>	<p>成果が見られた設問 【聞くこと】の領域 「情報を正確に聞き取る」</p> <p>課題が見られた設問 【聞くこと】の領域 「情報を正確に聞き取る」「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る」 【読むこと】の領域 「情報を正確に読み取る」「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る」「文と文との関係を正確に読み取る」「日常的な話題について、短い文章の概要を捉える」「社会的な話題について、短い文章の要点を捉える」 【書くこと】の領域 「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」「未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書く」「疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書く」「『相手の行動を促す』という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く」「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」</p>

【質問紙調査】本調査は、特に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に重点を置いた調査です。

生徒質問紙調査の結果から

朝食を毎日食べたり、毎日同じくらいの時刻に起きたりするなどの基本的な生活習慣は身に付いている様子が伺えます。先生から自分のよいところを認めてもらっていると感じるとともに、友達との関係に満足しており、学校に行くのが楽しいと感じています。人が困っているときは進んで助け、人の役に立つ人間になりたいと考えたり、いじめはどんな理由があってもいけないと考えたりするなど、人を思いやる心が育っている様子が伺えます。

また、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したり、学級の生徒との間で話し合ったりする活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしています。課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる生徒が多く、自己肯定感をもって過ごしていると考えられます。国語、数学、英語の勉強が大切だと感じ、授業で学習したことが将来社会に出たときに役立つと思っている生徒が多く見られます。

一方で、自分で計画を立てて勉強することや、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、学習や読書をする時間が短いといった、本校の生徒の状況も浮き彫りになっています。また、新聞を読むことや地域行事への参加、地域や社会をよくしたいなど、社会との関わりに関心が低い様子が伺えました。英語の授業において、聞いたり読んだりして概要や要点を捉え、英語で問答したり意見を述べ合ったり、書いたりするなどの活動が行われていたと多くの生徒が回答しています。しかし、スピーチやプレゼンテーションなどのまとまった内容を英語で発表する活動や、学校の授業以外で日常的に英語を使うような機会が少なく、積極的に英語を使うような生活をしたり、職業に就いたりしたいと思う生徒が少ないのが現状です。

学力向上に向けた今後の取組

1 主体的に学習に取り組む態度の育成

生徒に探究の過程で見通しと振り返りを重視し、見方・考え方を働かせる授業展開を工夫することで、生徒に「分かる、できる」を実感させる授業を実現します。知的好奇心を刺激するような題材を用意したり、日常生活と関連付けた学習課題を設定したりすることで、必然的に対話が生まれるような授業展開を工夫し、主体的に学習に取り組む態度を育成していきます。また、大型ディスプレイで発表したり、1人1台端末を用いて互いの情報を交流したりして、他者の感想や意見を基に自分の考えを広げ深めることで、学習を振り返り、自らの学びを調整して粘り強く学習する生徒を育成していきます。

ルーブリック評価等を用いて生徒の学びを形成的評価することにより、生徒の実態を把握して、授業改善に生かしていきます。また、授業で学習したことを、普段の生活の中で活用することに課題が見られるため、単元の終盤に活用課題を設定し、学習した知識を使って解決させます。単元をまたぐような内容や教科横断的な内容を扱うことで、実生活の中で生きてはたらく力を育成します。これまでの本校の取組の研究成果を踏まえ、日々の授業の一層の改善・充実に努めてまいります。

2 落ち着いた学習環境づくり(学習習慣を含む)

平日の学習において、家庭学習習慣において課題が見られます。生徒が家庭学習に取り組むためには、将来への目標が大切です。生徒が将来への夢や目標を見つけ、その実現に向けて努力する態度を培うためには、キャリア教育の充実が重要な役割を担っています。キャリアパスポートなどを活用して、将来への見通しをもたせるとともに、LSシートを活用して学習習慣を定着させていきます。1日当たりの読書する時間が短いといった、本校の生徒の状況も浮き彫りになっているため、学習習慣とともに読書習慣の改善に努めていきます。

また、学校において、生徒が安心して授業に臨み、学習内容を確実に身に付けることができるようにするためには、規律を定着させ落ち着いた雰囲気の中で学ぶことができる環境を整えることが大切です。学習規律の一層の確立に努めるとともに、学級経営を重視し、学級活動や学校行事等の特別活動を通じて、互いのよさや違いを認め合う望ましい集団づくりに努めてまいります。